



JSTだより vol.3

JST支援者限定配信！

今回は、2018年5月26日(土)に行われた

バイヨン中学校 初めての文化祭について、3ページにわたってご報告いたします！

この文化祭は、バイヨン中学校ではもちろん初めての試みでしたが、カンボジアの学校としても初めての文化祭だったのではないか…。私たちインターン生も興味津々で準備の段階から見守っていました。そして文化祭当日。沢山の地域の方々が訪れ、お坊さんをはじめ、村の方々を巻き込み、日本では見たことがないようなカンボジア独自の文化祭として盛り上がっていました。

ということで、まずは文化祭全体の構想について、校長先生にインタビューしました。

文化祭を振り返って

今回はとても楽しい文化祭を行うことが出来ました。このような文化祭が出来たことは、生徒たち、先生たち、村の方々を含む沢山の人のおかげです。ありがとうございました。

今回このような文化祭を行ったきっかけは、2016年の日本の教育現場視察研修で、高校の文化祭に参加したからです。日本の文化祭を見学をした際に、なぜカンボジアでは伝統文化を継承するような行事がないのか疑問に思いました。そこで、バイヨン中学校で文化祭を行ってみようと思いついたのです。

カンボジアの伝統文化をバイヨン中学校の生徒たちに知ってもらうためには、僧侶や村の方々を巻き込む必要がありました。各村の村長に薦められた家庭を直接に訪問し、伝統文化を披露してもらうことにしました。そして何度も文化祭当日までに訪問し段取りの確認を行いました。一番心配だったのは、当日来てくれるかでした。

理由は、今回ブースを出展してくれた方々は、ボランティアだったからです。しかし、当日は私より早くバイヨン中学校に着き準備を行っていました。そのような行動は非常に嬉しかったです。

100%の文化祭ではなかったですが、80%の文化祭を行うことが出来たと思います！今回の文化祭は、村どうしの交流にもなったので良かったと、周りの人からも好評でした。



バイヨン中学校
ルー校長

ルー校長の構想；「文化祭4本柱」

バイヨン中学校周辺には、土着信仰が根強く残っています。儀式の時期や行い方は村それぞれ違いますが、根本は一緒です。そのようなことを生徒たちに理解してほしいと思いました。昔は、各村の人々は、週に一回お寺に行っていました。現在では、週に一回お寺に行く人は少なくなっています。仮にお寺に行っても、生徒たちは信仰の本当の意味を理解しないまま参加しているので、改めて知ってもらおうと思いました。村の僧侶が中心となり、村のお寺で行われている儀式と信仰の紹介をしてもらいました。

僧侶による
信仰紹介

今回の文化祭では、バイヨン中学校周辺の4つの村の人に伝統紹介をお願いしました。

例えば、昔はカンボジアの生活には欠かせない道具の多くは、手作りをしていました。しかし、近年は、工業発展に伴いプラスチック製の物を買うのが主流となっています。プラスチック製の物は長持ちし、その上、安いという理由で、村でも手作りをすることは少なくなっています。生徒たちに、少しでもカンボジアの伝統的な技術に興味を持ってもらいたいと、このような展示を企画しました。

村の方による
伝統紹介

野菜や材料を仕入れ、利益が出るように値段設定をしたり、メニューを考案したり、そしてお客様のことを考え工夫したお店を作ることは、普段の授業では教えることが出来ません。そのような普段経験出来ないことを生徒たちに学んで欲しいと思いました。メンバーで協力をして得られた利益を手にすれば、達成感が湧くことでしょう。そのため今回は、全クラスがお店を出展することにしました。

生徒たちによる
物産販売

老若男女、みんなが楽しめ、親睦を深められる企画を用意しました。普段は、生徒たちが村の方々と関わる機会はありません。そして村の方も他の村と関わる機会はありません。そこで地域間の交流の場となるように、歌合戦と芸能披露を開催しました。歌合戦はバイヨン中学校の生徒、それ以外の中学校の生徒、地域の方々が参加し、文化祭の2週間前から予選を行いました。当日の本選は、地域の皆が一つのブースを囲んで盛り上がった良いイベントだったと思います。

芸能披露

信仰と伝統 紹介ブース

バイヨン中学校の裏の森に当日作られた出展ブースは32ブース。

生徒たちによる野菜屋さんやご飯屋さんだけではなく、

なんと僧侶や各村の方々のブースもありました！

カンボジアの文化がわかるブースの一部をご紹介します。



【宗教儀式に関する紹介ブース】

出家の儀式: 今回は特別に、バイヨン中学校の文化祭の会場で、実際の出家の儀式が行われました。この日の為に、宗教省に必要書類を提出し、許可をもらい、準備を進めたとのことです。儀式は、爪を切り、髪や毛を全部剃り、体を清めた上で始まり、朝から半日かかります。出家の儀式は普段は見ることが出来ないので、皆さん興味津々でした。

チャッチャイ: 法要や儀式の際、カンボジアではバナナの茎を用いて祭壇や飾りを作ります。このようなバナナの茎を彫る技術をカンボジアでは「チャッチャイ」と呼んでいます。今回は、バイヨン中学校に職人の方が来られ、実演してくださいました。バナナの茎に彫る模様は、儀式によって様々なバリエーションがあり、それぞれに意味や願いが込められているそうです。しかし、現在ではバナナの茎を使用せず、年中使える鉄で作られた祭壇や飾りを使う人が増えているとのこと。そのため、この技術を持っている人は少なくなっています。このような技術がなくならないよう、若い人たちに少しでも興味を持ってもらいたい…。村の長老たちの願いです。

【クロラン(竹筒おこわ)、ちまきのブース】

クロラン(竹筒おこわ)やちまきなど、儀式の際に作られる料理の紹介を行っていました。

出来たものを展示してあるだけではなく、実際に作る様子も見学する事が出来ました。ヤシの葉を使って器用に包む技術は、まさに職人技。これらの料理は、蒸して作るのかと思っていたが、沸騰したお湯の中に入れて茹でるそうです。お湯の中に入れた時、葉の隙間からお湯が入ってこないように包むのが重要です！(アンコールクラウ村より)



【手編みゴザのブース】

プアウという木の外側を加工した素材でゴザを編む様子を披露してくださいました。村で採れる素材によってゴザの素材も変わってきます。今回、ゴザ編みを披露してくださったコックペイン村の方は、プアウを素材として使用していましたが、藁や水草を使う村もあるそうです。天然素材で編んだゴザは、触り心地や風通しがよく、蒸し暑い雨季の季節にはぴったりです。しかし、現在は、プラスチック製のゴザを買うのが主流で、そのため天然ゴザの需要は減り、ゴザを編める人はわずかになっています。(コックペイン村より)



【骨つぎ整形医療の実演ブース】

伝統的な骨つぎ整形医療の方法を見学する事が出来ました。骨が折れた時にはまず、ココナッツオイル、ごまオイル、ニシキヘビオイル、蜜蝋、蜂蜜、鳥の骨などを混ぜ合わせた薬を塗ります。その後、樹皮と薬草を混ぜて練った粘土のようなもので折れた部分を固定します。最後に竹で作られた巻き簀で患部を覆います。カンボジアの田舎ではまだ病院がないため、ほとんどの所でこのような治療が行われています。(コックタナオ村より)



【産後の儀式実演ブース】

2005年に産婆制度がカンボジアで禁止されるまで実際に産婆をしていた村の女性が、産後の儀式を実演してくださいました。儀式では、産まれたばかりの赤ちゃんの髪を切り、安産だったことへの感謝の気持ちとして産婆さんに料理を捧げます。他にもお供え物が数々添えられます。お供え物には、生まれたばかりの赤ちゃんに対する”幸せ、繁栄、歓迎”などの意味が込められています。(プラサート・チャッ村より)



※産婆さんへの料理です。

参加者の感想

参加した生徒たち、先生、村の方は、初めての文化祭をどのように感じたでしょうか？文化祭に参加してくださった方々に感想を聞いてみました！

バイヨン中学校生徒: 1年A組 チョーン・サーエムさん

私のクラスは学校で採れた野菜と家で採れた野菜や果物をブースで売りました。私たちが作ったブースは、綺麗に見栄え良く装飾していたので、賞を取りました。紙で花を作り、ココナツの葉を切り、工夫した装飾だったので一生懸命作って良かったと思いました。初めての文化祭は、クラスの皆で協力してブースを出店できたので良い経験となりました。次回も、もちろん参加したいです！今回は大好評で野菜がすぐ売り切れてしまったので、次の文化祭は野菜を多く仕入れて参加したいです。



バイヨン中学校先生: ヘイン・ボティーカ先生

私は、1年Aクラスの販売指導を行いました。文化祭を行うにあたって苦労したことは、文化祭を生徒たちに理解させることでした。私は、日本の文化祭に参加した事がないため、文化祭と聞いても何かわかりませんでした。そのため日本に研修に行った先生に、日本の文化祭の様子について何度も聞きました。そして、生徒たちに文化祭を紹介したのですが、案の定、生徒たちも文化祭を理解出来ませんでした。手探りで準備を進めたのですが当日は大好評だったので嬉しかったです。

生徒たちは、他のクラスのブースからもアイディアを貰える為、良い刺激になったと思います。そして、村の人たちや他の中学校の生徒、海外からのお客さんと交流でき非常に良い経験となりました。

地域の方: アンコールクラウ村の ルン・ライさん

今回の文化祭は非常に楽しかったです。お店で野菜や食べ物を買ったり、伝統ブースを見たりと、飽きずに楽しむことができました。カンボジアには文化祭という行事が存在しないので初めての参加でしたが、良い行事だったと感じました。生徒たちが一生懸命作った野菜は、新鮮でとても美味しかったです。カンボジアの伝統菓子は、アレンジの仕方もきれいで、様々な味が用意されていて驚きました。次回もぜひ参加したいです。



クヴィエン中学校(バイヨン中の隣の中学校)の生徒: 3年B組 バッ・チュアイさん

バイヨン中学校の文化祭は、学校と村の人との協力があってこそその文化祭でした。そして、これは村の人に学校の様子を知ってもらえるよい機会だったと思います。この文化祭によって、地域の人からの教育への理解が得られたと思います。当日、私は歌合戦に参加しました。ショーと歌合戦が交互にあったために、予定通りの出番とはいからず、お昼ごはんを食べられないまま歌うことになりました。そのため、お腹がすいて力を出し切る事が出来ませんでしたが、ぜひ私たちの学校でも文化祭を開催したいです。そして、私たちの地域の人にも参加してもらいたいと思いました。

アンコールクラウ小学校の生徒: 4年生 ノイさん

私は、小学校の友達と文化祭に参加しました。バイヨン中学校に通っているお姉ちゃんから文化祭があると聞いたのですが、文化祭とは何かわかりませんでした。しかし、行ってみると伝統文化に関するブースやご飯を売っているブースがあり驚きました。一番心に残ったのは、歌合戦です。歌合戦は、バイヨン中学校の生徒以外も参加でき、ものすごく盛り上がってました。先生が優しく、イベント豊富なバイヨン中学校に早く入学したいです！



文化祭の売上金で生徒たちが寄付！



9年生(中学3年生)は、文化祭の売上金を使い、バイヨン中学校にコンクリート製のイスと机を寄付しました！生徒たちから5万リエル(12.5ドル)、そして残りは、先生から25万リエル(62.5ドル)出してもらったとのことです。



バイヨン中学校の文化祭は沢山の思いが込められており、次回も楽しみですね。

話は変わり、カンボジアの学年末は、8月…。そろそろ中学3年生の進路が気になる時期になりました。

ほとんどの生徒は進学を希望していますが、高校が遠いため進学をあきらめる生徒も少なくありません。

バイヨン中学校在校生からは、何度も「バイヨン高校を作りたい！」との要望が…。

そこで、校長先生に早速インタビューを行いました！次回のメルマガは、バイヨン中学校高校併設について、ご紹介致します。

ご存知でしたか??
JSTでは修復事業も
行っているんです！

Newsletter

アンコール遺跡 バイヨン寺院 ナーガ・シンハ彫像 および欄干 修復プロジェクト

vol.2 遺跡はどうやって修復するの?



2012年より、日本国政府アンコール遺跡救済チーム（以下JASA）の技術協力のもと、日本ユネスコ協会連盟との共同事業として開始した当修復プロジェクトでは、「カンボジア人からカンボジア人へ」の技術移転をめざし、日々厳しい暑さの中、地道な修復作業が行われています。今回は遺跡の修復がどうして必要なのか、実際にどんなことをするのかについてお話しします。そもそも、カンボジアの遺跡はなぜ崩壊していくのでしょうか？大きな理由は2つあります。ひとつは熱帯雨林の中で力強く成長する樹木です。積み上げられた石材の隙間へ風が運んだ土に草が生え、放置すると、入り込んだ樹木が建物を徐々に変形させるのです。ふたつ目は巨大な寺院を支える基礎の不同沈下です。それが壁や塔などの傾きやゆがみにつながり、最終的には倒壊してしまったりします。こうした原因により、現在もバイヨン寺院周辺にはたくさんの崩落した石材が落下し、その数は6万個以上とも言われています！当プロジェクトで対象としている欄干や彫像も例外ではありません。修復作業を始める最初の段階では、まずこうした周辺の散乱石材の原位置を特定することが重要な作業になります。そのほかの主な修復の工程は以下のようになります。



寺院のそばでバラバラになって散乱していたナーガ彫像

STEP 1



解体前に図面と写真による記録を行う。

STEP 2



彫像と欄干の必要な箇所の解体。

STEP 3



水と柔らかいブラシを使用してクリーニングを行う。

STEP 4



結合、接着、注入、強化、新材への部分的な置換、補填といった標準的な修復工法を適宜応用し、修理作業を行う。

STEP 5



仮組み作業と、再構築作業として石材を順序通りに再設置する。

社会見学会を実施しました！

カンボジアの子供たちに遺跡と修復の面白さと大切さを伝え、次世代の遺跡保存を担う世代を育てたい！そんな思いから当プロジェクトでは2016年より、日本ユネスコ協会連盟との共催で、アンコール遺跡周辺の子供たちを対象として、社会見学会を毎年実施しています。今年度は2018年1月に見学会が行われ、当日はカンボジア人専門家による遺跡や修復の話に熱心にメモを取りながら耳を傾け、石材の洗浄などの修復作業を体験しました。



「とっても楽しかった。アンコール遺跡に初めて来られたことが何よりもうれしかった！」「歴史の面白さを感じた」といった感想が。楽しんでもらえたようです！

バイヨン寺院を訪ねる機会がありましたら、ぜひ、修復の成果をご覧ください！修復現場ご案内ツアーも実施しています。詳しくはinfo@jst-cambodia.netまで

